

平成26年度 第4回 くまもと在宅医療・介護ネットワーク検討会 議事録（要旨）

I 日 時 平成27年2月13日（金）午後7時～

II 場 所 ウェルパルクまもと 4階会議室

III 出席委員 10名（五十音順、敬称略）

浅見 直美、今村 文典、木村 浩美、佐藤 英一、園田 寛、田島 和周、
野津原 昭、藤井 泰彰、古川 猛士、村田 秀博
（欠席：跡部委員、後藤委員、村田美和委員）

IV 次 第

1 開会 健康福祉子ども局総括審議員 挨拶

2 議事

（1）報告事項

- ・在宅医療・介護の連携推進について 資料1
介護保険制度改正（地域支援事業の見直し）

（2）協議事項

- ・在宅医療の体制と課題について 資料2
 - ① これまでの検討及び取り組み状況
 - ② 今後の取り組みについて

（3）その他

- ・各区の多職種連携世話人会のあり方について 資料3

3 閉会

V 議事録（要旨）

（1）報告事項

- ・在宅医療・介護の連携推進について 資料1
事務局より説明（議事略）

- ・ **（委員長）** ただいまの説明に、ご意見やご質問などないか。
制度が変わったと言うより、すべきことが明確化されてきた。我々も3年前からスタートしたが、この資料でそれぞれの事業に沿ってやってきたことを確認した。何を目指してどこまでやってきたのか、今までやってきた進捗状況ややってきたことの効果が分かると良いとは思っている。後程でもどなたかご意見などあればお願いしたい。

（2）協議事項

- ・在宅医療の体制と課題について 資料2
事務局より説明（議事略）

- ・ **（委員長）** 我々がこの3年間やってきたことが表に整理して網羅されているので、どんな事をやってきたか良く分かる。これまでの状況や取り組みについて、良かった点や反省点などご意見をいただきたい。
- ・ **（委員）** ケアマネの質が上がっていかない。主治医との連携の点でも、まだまだ主治医と面談もなくケアプランが一人歩きしているケースがある。後手、後手にサービス提供され、利用者もこんなものかと思っていると質は上がらない。ケアマネを選ぶ時代になれば変わってくるのかと思う。決して難しいことではなく、言われたことをきちんとやれば、自然と成されていくことだと思うが、にわかに研修を受けたケアマネが実務を始めてしまうことも多く、そのレベルに達しないのかと思う。御用聞きプランになってしまい、本当の課題が見つけられずにいると思う。例えば、医師と面談する為に主治医意見書を直接主治医からもらうシステムにすると良いかも知れないと思う。半強制的にでもやっていかないとケアマネの質が上がらないし、在宅療養も難しくなる。
- ・ **（委員長）** ケアマネの仕事は在宅医療の中心的役割なので、どうしたら質が上がるのか。どこで教育をするのか。行政から指導や研修はないのか。
- ・ **（委員）** 研修会は年に何回か行っているが、実務に活かされていない。熊本市以外でケアプランを行政が全てチェックしているところもある。
- ・ **（事務局）** 全てのケースをチェックされているのか。
- ・ **（委員）** 七城では、介護保険更新時にケアプランの提出を義務付けてチェックしている。熊本市では何か問題があった時には出向かれているようだが、全事業所を回って確認はされていないのが実情だと思う。ビシビシとやっていただければ、自ずとケアマネのレベルも上がってくると思う。
- ・ **（委員）** 平成27年度からケアマネ研修も増え、内容も医療の部分をたくさん入れるようになっている。ケアマネの質の問題もあるが、所属している事業所の関係で、そうせざるを得ないケアマネもいる。行政と専門職と一緒にチェックしていくと良いのではないかと考えている。
- ・ **（委員長）** では次に医療のほうから、お願いしたい。
- ・ **（委員）** 満遍なく事業が進んでいるので、逆に言うと特徴がない。ある地区では「緩和ケアに力を入れている」など柱があると分かりやすい。実際介護が必要になった時は、生活の中で見ていくと医療のウエイトは小さく生活支援が中心になる。始めの取り掛かりのスピード感が大切で、不安を抱える家族は、すばやく動いてくれるととても安心する。

今後は、日常療養支援と看取りに重点的に取り組んでいくと良いと思う。今後は特に施設での看取りが大きな課題になるだろう。日常療養支援については、医師とケアマネの関係と、ケアプランを上手く立てていくこと。医師もケアマネから連絡があった時には、何らかの返答をしなければコミュニケーションは進まない。ケアマネと医師の連携に何らかのシンプルなルールを作れば、上手くいくのではないだろうか。ケアマネはフェイスシートとケアプランは必ず立てると思うので、初回面談時にフェイスシートを必ず持参し、カンファレンスの時はケアプランを持参すれば

良い。新たなツールを作る必要はないかもしれない。ただ、ケアプランを持ってきてくれと頼んでも、持って来ない人もいて、利用者のサインもケアマネ名もないコピーのケアプランの事もあった。

また、福祉の方との連携が難しい。介護保険に慣れているからかもしれないが、自立支援や身障者の方の在宅医療になかなか慣れない。カンファレンスを開いてもらっても、利用者の目標に向けて関係者がひとつになるところが見えなかったりするので、医師に求められているものが分からない。在宅医療となると、介護の方ばかりでなく介護保険以外の方との連携が必要になるので、一緒に話をする機会を作ってほしい。

- ・ **（事務局）** 次回は障害福祉の担当者の参加を検討したい。
- ・ **（委員）** この検討会に参加して2年になるが、介護福祉士としては難しい話も多い。資格を取っておしまいではなく、そこから先の勉強が大切だと感じている。法改正の点で言うと、人材不足は今後重大になるだろう。そんな中で自分達がどう関わっていくのか、医師とケアマネの連携の下立てられたケアプランを、利用者に噛み砕いて伝えていかなければならない。職能団体としてどう関わっていくか考えていく事も課題だと思っている。また、現在区ごとの研修会が開かれているが、今後熊本市として、何かしらの方向性を持って動いていくのか話題になっている。
- ・ **（委員長）** 事務局いかがか。
- ・ **（事務局）** 区ごとに多職種連携の研修会を開いているが、まだ結論は出していない。本来は区よりももう少し小さい単位、包括単位ごと位だろうか。そうになると行政が直接開くと言うよりは、自主的に開いていただくとか個別に進んでいくことを期待している。スケジュールを組んでやっている訳ではない。
- ・ **（委員長）** 包括ごとにと言われても忙しくて大変かと思うが、このメンバーでやるとすると、区単位までしか手が回らないというのが現状かと思う。
- ・ **（事務局）** 包括で自主的に活動されているところに火をつけて回るのは、行政の仕事かと思う。
- ・ **（委員）** 区の取り組みが終わってから包括単位でと考えていて、小グループからやりましょうという話はすでにしている。ところが、包括はすごく忙しく、いろいろな研修会などもやっていただいているので、その上在宅医療の取り組みをお願いすることに躊躇がある。自身も主任ケアマネの資格を取っているが、施設だとそこ以外のサービスが入れにくいところがある。
中央区はささえりあ単位でやっているが、参加人数が多い。今の1/3位の人数でないと顔が見えないので、そのあたりの議論からやりましょうと話しているが、皆さん多忙でなかなか進まないことがジレンマではある。
- ・ **（委員長）** では、市の委託を受けている在宅医療委員会について、医師会からお願いしたい。
- ・ **（委員）** 熊本市医師会への委託で、在宅医療委員会を立ち上げた。①在宅医療に従事する医師の確保とその人材育成については、研修会を開いていろいろな在宅医療のパターンがあることをお伝えした。今回は3月に予定しており、24時間対応に関

して「てとてとココロ」の寸劇から検討会に展開することを考えている。②在宅医療を提供する医療機関の連携と患者の急変時の受入医療機関の確保については、基幹病院だけでなく中小病院の活用を考えている。③医療と介護の連携調整については、各区での研修会などにお手伝いをさせてもらっている。中央区では包括を2つずつにまとめて事例検討をしている。将来的には各包括単位でと考えている。④在宅療養患者の情報共有ツールの検討については、県での動きもあるようだが、現在地域で出来上がっているツールはそのまま使っていくという話もある。在宅医療委員会ではサイボウズLiveを活用してみようとの意見も出ている。

- ・ **（委員長）** 補足として述べる。診療科により在宅に意識の少ない医師や、24時間対応等に敷居の高さを感じている医師もあり、温度差がある。そのあたりを上手くまとめるのが医師会の仕事の一つだと考えている。
では、特定施設の立場から別の切り口でお願いしたい。
- ・ **（委員）** 在宅と言っても、自宅や特定施設など居宅系といろいろあり、その中での多職種連携が必要となる。先日経験した事例で、退院日が決まった方の介護保険変更申請にあたり、主治医が意見書を書いてくれないという事があった。担当ケアマネがいくら連絡しても、主治医に取り次いでくれなかったので、そんな時に主治医意見書を書いてもらうように相談窓口から言ってもらえるとスムーズに行くかもしれない。また、困りごとについて相談窓口が各担当を割り振ってくれるとありがたい。
- ・ **（事務局）** 意見書を書かないなど、困っておられる場合は保健所から言う事もできる。
- ・ **（委員長）** 最近の相談窓口の件数はいかがか。
- ・ **（事務局）** オープンして2年で117名。サービス提供者からの相談は数件で、ほとんどは市民の方からである。在宅医療を視野に入れた事前相談があり、次の段階で在宅医療を始める相談をされるケースも何件かあっている。
- ・ **（委員）** 在宅医療ケア支援センターのホームページはあるのか。
- ・ **（事務局）** 市役所のホームページに在宅医療関係をまとめて作っている。
- ・ **（委員）** 何らかの情報公開が必要かと思う。どんな相談をして良いのか分からないと思うので、模擬事例の報告を出してみてもどうか。
- ・ **（委員長）** もう少し市民への周知がなされると良いのではないか。
- ・ **（委員）** 退院支援は進んでいるが、基幹病院の中には、2日前に退院と言ってくるところもある。基幹病院と在宅の中間の医療機関がほしい。

医療保険と介護保険の谷間ではなく、混ざりも出てきている。特定疾患の対象変更に伴い、疾患も増えて制度も複雑になった。この数ヶ月その説明に追われている。高齢者の方や、認知症の方などは理解が難しい。それを現場の看護師やヘルパーが担うのか。こういったところにはどかが救いの手を伸ばしてくれるのだろうか。また啓発の点では、出前講座にもボランティアで出向いているが、反応が良いので続けていきたいと思う反面、利用者への支援もしっかり行わなければならないので、マンパワー不足を感じている。

また、いろいろな施設に訪問する機会があり、質の差や格差を感じている。医療で

訪問するが、どこまでケアに介入するかなど、現場の人と話す場がほしい。

今までやってきた連携の土台作りはできてきたと思うが、次に何をするのか、どんなアクションを起こしたら良いのか、まだ思いつかない。

- ・ **（委員）** 活動発表会と研修について少し話したい。先週、多職種連携活動発表会があった。多職種連携は包括の専門分野のような気がするが、包括からは1題も出ていなかった。各包括がそれぞれの地域に合った方法で取り組んでいるが、今は各包括とも非常に業務多忙なため、業務以外のことを振らないでほしいというような雰囲気もあって、なかなか発表に繋がらないのかと思う。また、発表内容がこれだけ重要な活動をしたと言うことに留まらず、今後活用できる成果を提示できないと、次回の参加が危ぶまれるのではないだろうか。包括の中でもすでに実績を上げているところもあるので、募集ではなくそこをお願いする形でも良いのかと思う。そして、連携のこんなところに苦勞したとか、上手くいったとか、連携にポイントを置いた発表にしないと、活動報告と言う形の発表では伝わってこない部分が多い。中央区の研修会は参加者の気づきが得られた会だったと思う。多職種で活発に意見交換、情報交換ができて非常に刺激を受け、有意義だった。新しく業務についての方に、積極的に参加してもらおうと良いと思う。有料老人ホームなどは、参加する機会がないので有り難いとの意見もあった。施設に案内があっても、スタッフには届かない事もあるようなので、必要な人に届くPRの仕方を検討したい。開催規模については、区ごとだといつもと違うメンバーに会えて刺激になる。包括単位だと通常業務になるので、区ごとに行う事も重要だと思う。
- ・ **（委員）** 歯科では、在宅医療に関して連携しにくい部分もある。県歯科医師会で購入した高度なポータブルユニットを市歯科医師会にも1台もらえるようなので、歯科の訪問診療の裾野を広げやすくなるのではないかと考えている。また、その裾野を広げる為に、摂食嚥下障害の研修会に取り組んでいるが、食べられない方を食べられるように入れ歯の検討や、寝たきりの方とそうでない方の顎の位置の変化などの内容で行うと反応が良く、意欲も上がってくるようだ。ただ、会として訪問歯科診療の件数などは集約できていないところが悩みの種である。
- ・ **（委員長）** 今後の取り組みについては、事務局のほうで今までの意見をまとめて選んでもらってはいかがか。資料2-2の4つの機能の中で、急変時の対応は他の会でもやるし、退院支援は病院との関係があるので、先ほど言われたように日常療養支援と看取りのところで、今までやっていないところを埋めていくとこの表が完成すると思う。事務局に一任したい。

（3）その他

- ・ 各区の多職種連携世話人会のあり方について
事務局説明（議事略）

資料3

- ・ **（委員長）** 何かご意見はないか。
- ・ **（委員）** 世話人会のメンバーが多すぎて話がまとまらない。メンバー構成や人数を検

討して、効率良くしてほしい。テーマを決めてメンバーを選抜したり、当番制でチーム A、チーム B が引っ張っていくとか。

- ・ **(委員長)** 区でやっていくという割には、区役所の顔が見えてこない。
- ・ **(事務局)** 福祉課と保健子ども課に案内しており、出席はしている。
- ・ **(委員長)** この会にも区役所から出席してもらっても良いのではないか。区役所で引っ張っていく雰囲気は見えてこない。そこをやってもらうと、各区でも盛り上がっていくのではないか。

他に意見がなければ、本日はこれで終了としたい。

以上